次世代日本研究者　協働研究ワークショップ　プログラム例

※詳細は変更になる場合があります。

”ネットワークを構築し、協働研究を実践する力を養う”ため、の各種プログラムを用意しています。
講義を通じた知識のインプットに留まらず、バックグラウンドの異なる参加者同士が議論するグループワークの時間を設けることで、より深い考察に繋げることを目指します。
また、プログラムで得るネットワークを協働研究の実践の足場とできるよう、最終日には、異なる国・地域（国際性）、異なる分野（学際性）の者同士でグループを作り、実際に要旨（アブストラクト）作成や簡易のパネル研究発表を行い、講師からの講評を受ける機会を提供します。

テーマ	内容
学際研究の 意義	講義内容 ・概説：学際研究とは何か。なぜ、分野を超えた研究協力が必要なのか。 ワーク ・割り当てられたグループで学際発表を行うとしたら、どのようなものにするか。各グループで議論し、提案する。
「研究者」を考える 論文発表と出版	講義内容 ・研究者と社会の関わりを出版や論文発表から考える。 ・日本や英語圏で出版、論文発表を行う際の留意点。 ワーク ・講義での問いかけを受け、自身の研究についてその社会的意義を説明する。
奨学金／研究費 獲得に向けた申 請書の書き方・研 究デザイン	講義内容 ・奨学金等に申請する際の申請書の書き方講座。 ・自分の研究を如何に意義あるものとして説明するのか。説得力のある研究デザインとはどんなものか。 ワーク ・実際に申請書を書き、講師からコメントを受ける。
研究内容 オリジナリティの 見つけ方	講義内容 ・自分の研究に合った研究方法の選び方。講師はどのような経緯で現在の研究内容・研究方法に至ったか ・先行研究をふまえて、どの部分であれば自身のオリジナリティを出せるか、また他の分野とどのように関わっているか。 ・研究のオリジナリティと協働研究の実践。 ワーク ・自分の研究のオリジナリティは何か ・自分の研究でカバーできない部分は何か。そこをどう補っていくか。
「研究者」としての キャリアと 国際協働研究	講義 ・各講師のパーソナルヒストリーを紹介、なぜ日本を研究するに至ったか ・どういった学会で活動してきたか ・現在に至るまでの国際的な研究の繋がり ・いままで直面した壁とその打開方法 ・若手研究者としての心得（所属機関における役割等々） 座談会 ・前半の各講師の紹介を受け、若手、シニアの立場から「研究者」としての国際協働研究について、全講師による座談会を実施
大学訪問 ／交流	・日本国内の大学や研究所の訪問 ・日本国内の大学に所属する教員や学生との交流（研究に関するディスカッション　等）
グループ発表	・グループごとに発表（国際学会参加を想定し、模擬パネル発表） ・講師からの講評（実際にAASに応募する際の具体的アドバイス） ・本ワークショップ全体統括

【使用言語】
プログラムを通じて、日本語・英語どちらも用いる可能性が有りますが、いずれの場合も通訳はありません。
参加者は、両言語でインプット・アウトプットができる必要があります。